

この度は、エレバグモード付きメモリーキーヤーをお買い上げいただき、誠に有り難うございました。

## 1. GK509A の特徴

アイアンピックモード(通称エレキー)の他にエレバグモードがあり、任意の長さの長点が出せる。エレバグモードでは、短点と長点との間のスペースが、規定の長さ(短点1つ分)に自動的に補正される。これにより、エレキーの気軽さで、バグキーライクな符号が打ち出せる。アイアンピックモードとエレバグモードは、**モード切替スイッチ**で簡単に切り替えられる。(アイアンピックモードでは、左右のツマミの同時押さえで、短点と長点の交互連続符号が出ます)再生中に割り込みが可能(再生中に一旦停止が出来、キー操作が出来ます)マニュアルキー(縦振キーやバグキー等)のメッセージの記録が可能。通常の操作の他に付加機能設定として、デモモード、自動CQモード、リピートモード(全CH、CH4とCH8のみ)などアドファンクションを付加設定できます。モニター音も内蔵(このクラスとしては大きな音量があり、かつ電池消耗(作動時約1mA程度)も抑えています)メモリーは不揮発性であり、スイッチを切っても、内容が消えない。単四電池2本で動作し、不使用時に殆ど電流を消費せず、電源スイッチを切らなくても良い。

## 2. 使い方

### 2.1 準備

まず電池が入っていることを確認します。電池は単四が2本です。(出荷時実装)交換時は電池の向きに注意します。次に、パドルを付属のミニステレオプラグ付きコードに接続し、本体後面の**IN**につなぎます。ここで、**POW(電源)スイッチ**をONにします。(繋ぎ方は最後のページを参考にして下さい)**SPEED**(スピード)と**MON**(モニター)のツマミは、中央に合わせておきます。

### 2.2 アイアンピックモードでのオペレーション

一番右の**E KEY**(エレキー)と**E BUG**(エレバグキー)の**モード切替スイッチ**を**E KEY**にします。これでアイアンピックモード(通称エレキー)になります。動作は、一般的なエレキーヤーとなります。(通常の手操作の時は親指が短点、人差し指が長点となります、左右ツマミの同時押さえで、短点と長点の交互連続符号が出ます、この事をスクイズ操作と言います)モニターの音量をツマミで合わせます、またスピードツマミで、好みのスピードに合わせます。

### 2.3 エレバグモードでのオペレーション

**モード切替スイッチ**を**E BUG**にします。これでエレバグモードの動作になります。長点パドルを長く押し、ながーい長点が出る事を確認します。長点は任意長で、短点とスペースは自動で整えられます。長点と短点の間のスペースや長点同士の間スペースは、パドル操作が短すぎても、きれいに調整された信号になります。(一般的なセミエレキーと違い、綺麗な符号が出ます)

ダブルレバーのパドルでも、後押しレバーが優先しますので、動作的にシングルレバーとなり大変操作し易くなっております。(本機の特徴の一つで画期的です)

### 3. メッセージメモリの使い方

#### 3.1 メモリーチャンネル

メモリーチャンネルは、8チャンネルあり、これをCH1からCH4までの4個の**プッシュスイッチ** **A**、**B**、**C**、**D**と中央の**CHシフトスイッチ**を用いて操作します。

(**CHシフトスイッチ**を下側に倒すとCH5からCH8までになります)

#### 3.2 メッセージの記録

(メッセージを記録する時は、キーヤーのモニター音を使います)

メッセージを記録する時は、各チャンネルのプッシュスイッチを2秒ほど長押しします。

すると、モニターから“R”が聞こえるので、聞こえているうちに手を離してください。

するとさらに、“BT”が聞こえます。“R”と“BT”は、通常、違ったスピードで聞こえます。“BT”のスピードが、現在のスピード設定つまみの位置によるものです。

“BT”の後、パドルを操作してメモリーにメッセージを入力(記録)します。

エレバグモードの場合はエレバグの信号が、アイアンピックの場合はアイアンピックモードで記録されます。

(メッセージ記録中に、モード変更は出来ません)

ワード間のスペースも、操作した通りの長さで記録されます。(最大で短点40個分)

メッセージ記録が終わったら、もう一度プッシュスイッチ(どれでも良い)を押してください。

すると、キーヤーは“AR”をモニターから出して、メッセージ記録を終了します。

メモリーが一杯になると、キーヤーは勝手に“AR”を出してメッセージ記録を終了します。

なお、メッセージ記録中は、本体後面の**OUT**には記録中のメッセージは出力されません。

(モニター音でキ - 操作して下さい。ただし、付加機能設定でデモモードに設定しておけば、記録中のメッセージが出力されます。この場合も記録中のモードの変更は出来ません)

#### 3.3 メッセージの削除

記録したメッセージを削除したい場合は、“BT”のあと、何も入力しないでプッシュスイッチを押します。キーヤーは、“T”の音を出して、そのチャンネルのメモリーを削除します。

入力で間違った場合は、プッシュスイッチを押してメッセージの記録を一旦終了し、上記の操作で削除するか、上書きします。

#### 3.4 メッセージの再生、停止

メッセージを再生するには、各チャンネルのプッシュスイッチを短く押します。

(長押しすると、メッセージの記録になってしまいます)

スイッチを離したら、すぐに再生が始まります。記録したときのモードで再生されます。

再生後は自動停止します

途中で止めるときには、長点パドルを一度押します。(CH1とCH2又はCH3とCH4の同時押しでも可)

再生しようとした、メモリーが空の場合は、キーヤーは“T”をモニターから出すだけです。

### 3.5 再生中の割り込み

メッセージの再生中にもう一度どれかのボタンを押すと一旦停止し、キー操作が出来ます。更にもう一度どれかのボタンを押すと再生を継続します。(工夫次第で面白い使い方が出来ます)

## 4. マニュアルキーの信号記録

エレバグモードで、スピードを最大に設定し、パドルの長点側(付属の2芯コードのアースと白色)にマニュアルキー(縦振キー、バグキー、複式キーなど)をつないで、これらの信号を記録することが出来ます。

記録開始の“BT”は、耳にも止まらない(?)スピードになりますが、これは無視します。

何でも打ってみてください。再生すると、記録したとおりに聞こえます。

## 5. マニュアルキーの補正動作

エレバグモードで、スピードを普通に設定し、それと同じようなスピードでマニュアルキーを操作すると、手ではうまくとれなかったスペースが挿入され、聞きやすい符号になります。(メモリーに記録しても、同様のスペース補正付きで記録されます)

また、マニュアルキーのスピードが余り速くなるとキーヤーがついてこなくなるので、適当にキーヤーの方のスピードを調節してください。

逆にキーヤーのスピードを早くしていくと、スペースの補正の程度が少なくなっていきます。スピードを最大とすると、スペースの補正が殆ど無くなり、マニュアルで打った殆どそのままの信号が出力され、また、記録されるようになります。

## 6. メモリーのサイズ

記録できる文字数は、モード、入力する符号、スペースの長さによって変化します。次の記録文字数が各チャンネルの目安です。(アイアンピックモードで、8つのCH合計で最大6,000文字)

アイアンピックモード: およそ750字

エレバグモード: およそ375字

マニュアルキーの場合: およそ225字

### (注意事項)

リグのキ - 入力は**ストレートキー**用にして下さい。

製品のデザイン、仕様等は、予告無く変更することがあります。

**GK509A** を真空管式リグに**直接接続する事は出来ません**。(キー端子に高圧がかかっているためです)

電池は液漏れする事が有ります、1年に1度は下ケ - スのネジ4本を外し電池の交換をして下さい。

リグとの接続には付属の単芯シールドコードをお使いください。リグ側のプラグは別途ご用意下さい。

(リグによってプラグの種類が違う為です)

プリント基板は取り外さないで下さい。(取り外すと初期の性能が発揮出来なくなります)

## GK509A 付加機能(アドオンファンクション)の設定

付加機能(アドオンファンクション)として、次の4つのモードを設定することができます。

必要に応じて設定し、活用して下さい。

デモモード：メッセージ記録時に、モニター信号を出力にも出す。(通常は、内蔵モニター音のみ)

自動CQモード：CH2のみで設定可能で、自動で一連のCQを2回出力する。

リピートモードA：全CHで、記録したメッセージを繰り返し出力できるようになる。(A:All)

リピートモードS：CH4とCH8で、記録したメッセージを繰り返し出力できるようになる。(S:Selected)

各モードの設定手順は、次ページのチャートのようになります。

下記は自動CQモード設定の例です、自局のコールサインが未入力の場合は、次のようになります。

スイッチCとスイッチDを長押しします。“**CBT**”が聞こえたらスイッチから手を離します。

自局のコールサインをパドルの操作で入力します。(何も入力せずA、B、C、Dのいずれかのスイッチを押すと、モニターから“**T**”が出て、入力されたコールサインは削除されます)

スイッチBを押します“**AR**”が出ます。

これでコールサイン入力は終わりました。

次に、CH2に自動CQモードの設定をします。

CHスイッチを上側(CH1-4)にします。

スイッチAとBを同時に長押しします。“?”が聞こえたらスイッチから手を離します。

スイッチBを長押しし“**R**”が出たら手を離します。(これで設定完了です)

再度スイッチBを押すと自動CQが出ます。



## 付加機能(アドオンファンクション)の各モードの設定手順

スイッチ A とスイッチ B を同時に長く(2秒位)押す モニターから“?”が出たらスイッチから手を離す。

次に ←

アドオン ファンクション	押すスイッチ	スイッチを長く押す(2秒位) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ファンクションON</span>	スイッチを短く押す <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ファンクションOFF</span>
デモモード	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スイッチ A</span>	記録時もモニター信号を出力にも出す	解除
自動CQ(CH2のみ)	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スイッチ B</span>	自動で一連のCQを2回出力	解除
リピートモードA	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スイッチ C</span>	全CHとも リピートモード	解除
リピートモードS	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スイッチ D</span>	CH4とCH8が リピートモード	解除

モニターから“R”

モニターから“N”

設定完了 ←

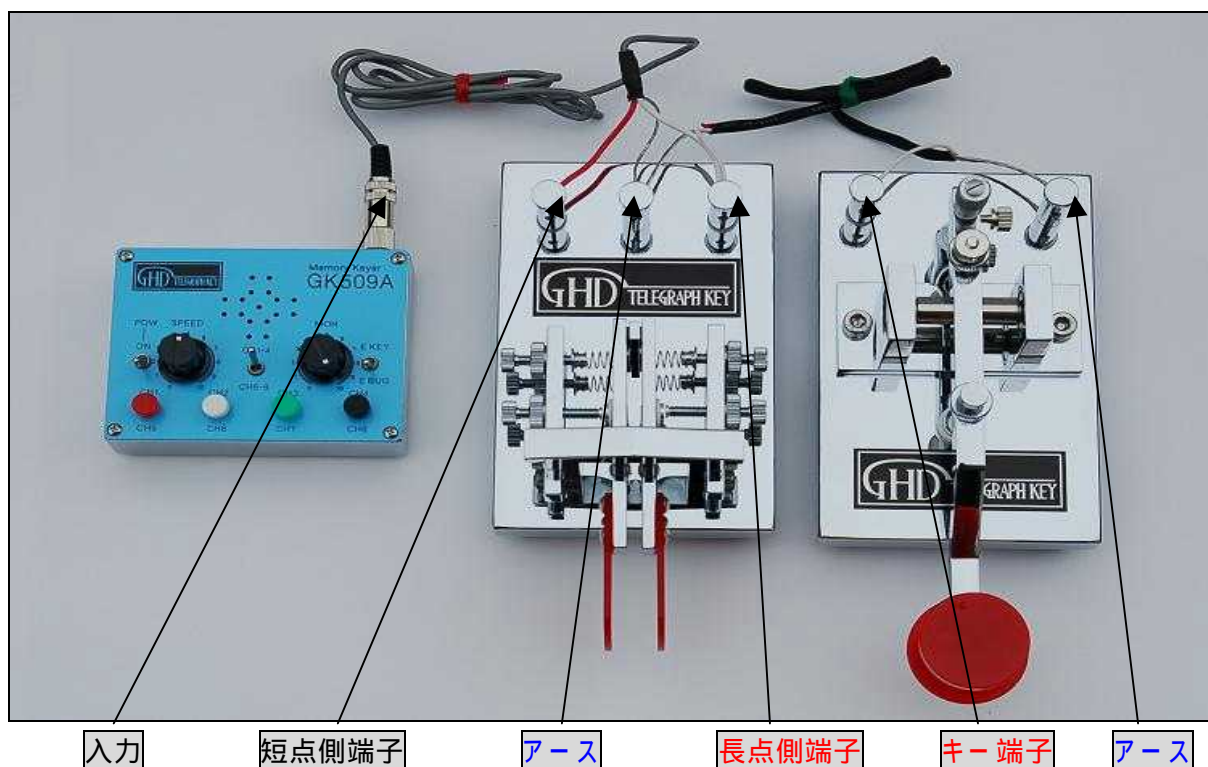
### (注意事項)

CH に記録したメッセージの送出手続きが完了していない時やCHボタンを押して一時停止している時に、別のCHに記録したメッセージを送出することはできません。長音パドルを押して送出手続きを中止するか、メッセージ送出手続きの終了を確認してから、送出手続きしたいCHボタンを押してください。

CH2が自動CQモードに設定されている場合、リピートモードAに設定しても、CH2はリピートモードにはなりません。(自動CQモードが優先)

設定の全解除(オールクリア)は、一度 POWスイッチ を切り スイッチ A を押しながら POWスイッチ を ON にしてください。

## パドルと縦振キー (バグキー、複式キー 等も OK)との接続例



上記の写真のように接続すると、**GK509A** の **モード切替スイッチ** の操作一つで、エレキーも縦振りキーも即座に使用できます。

付属の 2 芯コードで **GK509A** の **入力** とパドルを繋ぎます。(赤が短点、白が長点となります)  
(エレキーのみでの使用はこれで OK です)

1 芯のコードでパドルの長点端子と縦振キーなどを繋ぎます。(1 芯のコードはお客様でご用意下さい)  
(パドルの **アース** と縦振キーの **アース** を、パドルの **長点側端子** と縦振キーの **キー端子** をそれぞれ繋ぎます)

**GK509A** のスイッチを **E KEY** にするとパドルで **エレキー** の操作が出来ます。

**GK509A** のスイッチを **E BUG** にするとパドルで **エレバグ** の操作が出来ます。

**GK509A** のスイッチを **E BUG** にすると縦振キー等の操作が出来ます。

**GK509A** を **記録モード** にすると、上記の ~ の記録、再生(リグ等への送出)が出来ます。

### (注意事項)

リグとの接続は **付属の 1 芯コード** をお使い下さい。

(リグのキー入力、ストレートキー用にして下さい)

リグ側のプラグはリグによって異なりますのでお客様でご用意願います。

## 株式会社 GHD キー

〒981-3326 宮城県黒川郡富谷町明石字下向田 24-14

Tel: 022-779-0681 Fax: 022-779-0682